

教出

二年生 「かさこじぞう」の指導案

目標 じいさまやばあさまの様子を思い浮かべながら読むことができる。

○ 指導計画

① 第一次指導（一時間） 概観

② 第二次指導（二時間）

特色（重要な場面）を読む

③ 第三次指導（一時間） 漢字

① 第一次第一時指導

○ 本時の目標

- ・ 「かさこじぞう」のおおよその話をじいさんの行動でつかむことができる。
- ・ 大切な場面を選ぶことができる。

○ 具体的な展開（七つの過程の変化）

- 一 よむ（音読 五区画 五人）
- 二 とく（読後感の整理の話し合い）
  - かさこじぞう（題目の扱い 題板書）  
（題目を手掛かりに物語の輪郭を明らかにする。）
  - ・ 「地蔵」と「笠」について考える。
  - ・ 「地蔵の絵」を見ながら考える。
- 三 よむ（手引きに沿って読み）
- 四 かく（三 よむ で探した言葉を短く 名詞で）
  - 1 上げかさ
  - 2 声
  - 3 手ぬぐい
  - 4 ふち
  - 5 雨戸

五 よむ（四 かく（板書）を全員で指黙読、指音読）

六 とく（板書を手掛かりにして全文を一握りにする話し合いをし、詳しく読む場面を決める。）

○ 手拭と菅笠の動き（事実の扱い）

○ 老夫婦の願い（山の扱い 3 4 5）

○ 老夫婦の明るさ（余韻 老夫婦||地蔵）

七 よむ（授業を振り返りながら板書を指音読）

〈板書事項〉

上げ たすける  
かさこじぞう  
じいさま

1 五つ  
上げがさ

2 大年の市  
声

③ 六人  
手ぬぐい

④ はし  
ふち  
まねごと

⑤ 雨戸  
じぞうさま  
そり

②の1 第二次第一時指導

○ 本時の目標

- ・ じいさんが地蔵様に笠をかぶせる様子を詳しく読むことができる。

一 よむ（音読 五区画 五人）

二 とく（復習と承接）

○ 老夫婦の願い（正月様を迎える）

○ 餅を買う工夫と大年の市

○ 地蔵に笠を被せたじいさん（手引き）

三 よむ（手引きに沿って読む）

四 かく（手引きにしたがって視写）

ところが、じぞうさまの数は六人、かさこは五つ。どうしても足りません。

「おらのでわりいが、こらえてください。」

じいさまは、自分のつぎはぎの手ぬぐいをとると、いちばんしまいのじぞうさまにかぶせました。

「これでええ、これでええ。」

そこで、やっと安心して、うちにかえりました。

五 よむ（指黙読、指音読）

六 とく（板書活用のお話し合い）

○ 難語句 こらえて つぎはぎ 安心

三区分（語義・区分）

○ じいさんの願い（心）

○ じいさんの忘れたこと（余韻）

七 よむ（全員で板書を指音読）

②の2 第二次第二時指導

○ 本時の目標

- ・餅つきのまねごとをするじいさまとばあさまの様子を詳しく読むことができる。

ところが、じぞうさまの

数は六人、かきこは五つ。

どうしても足りません。

「おらのでわりいが、

こらえてください。」

じいさまは、自分の

つぎはぎの手ぬぐいを

とると、いちばんしまいの

じぞうさまにかぶせました。

「これでええ、これでええ。」

そこで、やっと安心して、

うちにかえりました。

②の3 第二次第三時指導

○ 本時の目標

- ・地蔵様がそりを引いて、じいさまのうちの前に来たとき様子を詳しく読むことができる。

- 一 よむ (音読 五区画 五人)
- 二 とく (復習と承接)

○ 地蔵様とじいさま (肩や頭の雪)

◎ 帰ったじいさまとばあさまの様子

○ 餅つきのまねごと (手引き)

三 よむ (手引きに沿って読む)

四 かく (手引きにしたがって視写)

じいさまは、

米のもちこ

ひとうすばったら

と、いろいろのふちをたたきました。

すると、ばあさまも、ほほとわらって、

あわのもちこ

ひとうすばったら

と、あいどりのまねをしました。

それから二人は、つげなかみかみ、おゆ

をのんでやすみました。

五 よむ (指黙読、指音読)

六 とく (板書活用の話し合い)

○ 難語句 あいどり つげな ゆをのんで

三区分 (語義・区分)

◎ 貧しさと二人の明るさ

○ 気持ち良いリズム (余韻)

七 よむ (全員で板書を指音読)

- 一 よむ (音読 五区画 五人)
- 二 とく (復習と承接)

○ じいさまとばあさま (餅つきのまねごと)

◎ 真夜中の様子

○ 歌と音の部分を書く。(手引き)

三 よむ (手引きに沿って読む)

四 かく (手引きにしたがって視写)

じよいやさ じよいやさ

六人のじぞうさ

かきことつてかぶせた

じさまのうちはどこだ

ばさまのうちはどこだ

ずっさん ずっさん

じよいやさ じよいやさ

五 よむ (指黙読、指音読)

六 とく (板書活用の話し合い)

○ 難語句 じよいやさ ずっさん

二区分 (語義・区分)

◎ お地蔵様の力

○ じさま・ばさまの様子 (余韻)

七 よむ (全員で板書を指音読)

③ 第三次第一時指導

○ 本時の目標

- ・ 新出漢字等を手掛かりに「かさこじぞう」のよさを話し合う。

一 よむ (音読 五区画 五人)

二 とく (復習と承接)

○ 地藏様とそり (重い荷物)

◎ じいさまとばあさまと正月さん

○ 新しい漢字の読み方 (手引き)

三 よむ (板書の語句を黙読)

四 かく (三 よむ を仮名で書く)

売る

買う

市

店

野っ原

風

顔

雪

今

米

止まる

雨戸

五 よむ (指黙読、指音読)

六 とく (板書活用の話し合い)

○ 各語句を区画毎に (文中の位置)

◎ 重要語句の確認 (こもる力)

○ 昔話の楽しさ (余韻)

七 よむ (全員で板書を指音読)

- ・ 家に帰ったら仮名で書いたものを七十九ページを見ながら漢字になおして書く。熟語も書く。